

オムニバス長編映画合作

新型コロナウイルスの影響で大学の課外活動が制限される中、全国約100大学の映画部や映像サークルに所属する学生をつなげて一つの映画を製作するプロジェクトに、県内から県立大（総社市窪木）と就実大（岡山市中区西川原）の有志が参加した。完成したオムニバス長編映画「突然失礼致します！」（3時間15分）の公開が今月16日から、動画投稿サイトのユーチューブで始まった。（伊丹友香）

プロジェクトは群馬大 ビュータグラフィック（19）に主人公を演じて映画部長の4年熊谷宏彰（21）が発案。4〜6月、コロナ禍で創作活動の自粛を余儀なくされた全国の仲間SNS（会員制交流サイト）を通じて



神野凌輔さん

とあって、約7割がスマートフォンで製作したものだという。県立大映像サークルに所属する2年神野凌輔さん（19）の作品「小さな日常に乾杯」は、とオンラインで交流で

て協力を呼び掛けた。共通テーマは「希望」

（密閉、密集、密接）を避けて撮影することや企画会議はリモートで行うことなどを条件に、1分以内の作品を募ったところ、実写やアニメ、コン

同級生の古江健斗さん きたこともいい刺激に



「小さな日常に乾杯」の一場面
©A_JAPARATION_FILM



就実大の（左から）花房瞳さん、久保秋乃さん、横山あやめさん

県立、就実 ユーチューブで公開 有志参加

「新作の準備も始めた」と声をそろえた。総監督を務めた熊谷さんは「コロナ禍でも創作活動は可能だと証明できたと思う。学生たちの熱意を多くの人に伝えたい」と話す。公開は10月末までの予定。熊谷さんらは劇場公開も目指している。

「コロナ禍だから活動できないと諦めていたけど、今回の挑戦が『やればできる』と次への意欲につながった」と3人。その上で「新作の準備も始めた」と声をそろえた。総監督を務めた熊谷さんは「コロナ禍でも創作活動は可能だと証明できたと思う。学生たちの熱意を多くの人に伝えたい」と話す。公開は10月末までの予定。熊谷さんらは劇場公開も目指している。